

事業の名称： 永井隆博士生い立ちの家を活用した担い手育成事業

団体名	雲見の里いいし	事業費	128,943円
代表者	会長 妹尾 富徳	補助金交付額	120,000円

現状と課題

飯石地区はこれまでもボランティアガイド育成やガイドブック作成など、永井隆博士の顕彰事業に取り組んでいる。多久和下口にある永井隆博士生い立ちの家は、令和4年度に屋根の葺き替え工事が完了し、活用策に取り組んでいる。

生い立ちの家という飯石地区だけでなく、雲南市の貴重な地域資源を守り、永井隆博士の「平和を」の精神を次世代に継承するためにも、引き続き活用を進めていくことが課題である。

事業の目的

地域の保護者世代、担い手世代が中心となって、生い立ちの家の活用を考える事で、地域資源への意識を高める。

生い立ちの家の屋根の葺き替えを冊子にまとめ、記録として残すだけでなく、これを販売し自主財源の獲得を目指す。

実施内容

- ① 永井カフェ（12月より「永井隆タイム」に名称変更）の継続開催
- ② 令和5年5月 三刀屋高校JRC部による生い立ちの家訪問
- ③ 斐伊川和紙オリジナル絵はがきセットの開発
- ④ 令和5年9月の永井隆平和賞、11月の永井隆平和祈願ミサにて生い立ちの家に関する展示、ガイドブック、絵はがきセットの販売
- ⑤ 「雲見の里いいし」ウェブサイトの作成、生い立ちの家の紹介ページの開設



◇成果と課題

今年度は、昨年度から始めた「永井カフェ」の継続開催、グッズ開発、観光ルートの検討、出展やウェブサイト作成を通して活動の発信に力を入れた。

永井カフェ・永井隆タイムでは、地域内外から延べ120名以上の見学者があった。また三刀屋高校や『雲南市演劇によるまちづくりプロジェクト実行委員会』との交流など、地域内外の担い手世代にアピールできた。

斐伊川和紙を使った絵はがきセットは来訪者に少しずつ売れており、地域のオリジナルグッズとして定着しつつある。

今年度の事業の成果を足掛かりに、次年度の「みとや御衣黄平和まつり」や雲南市政20周年の機会を活かして、生い立ちの家や「平和を」の精神を幅広くPRしていきたい。

